



花火のまち
大仙市

資料 3-2

令和3年度第1回 大仙市総合戦略推進会議

- **成長的農作物を活用した
発酵食 I B U R I プロジェクト**

1. 大仙市の農業の現状と課題

(1) 現状と課題

- ・市域の4分の1を農地が占める
- ・経営耕地面積の95%が水田 県内屈指の穀倉地帯
- ・米政策の大転換により影響が懸念
- ・**稲作主体からの転換が急務**
→ **複合経営化、周年農業化、6次産業化等の推進**

(2) 施策展開の方向

①大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略

【基本目標1】地域資源を活かす産業の振興

- ・戦略作物を安定的に供給できる産地形成
- ・収益性の高い地域農業の確立

②第3次大仙市農業振興計画

【施策の展開方向】

- ・6次産業化に取り組やすい環境づくり
- ・地場農産物を使った新商品の開発

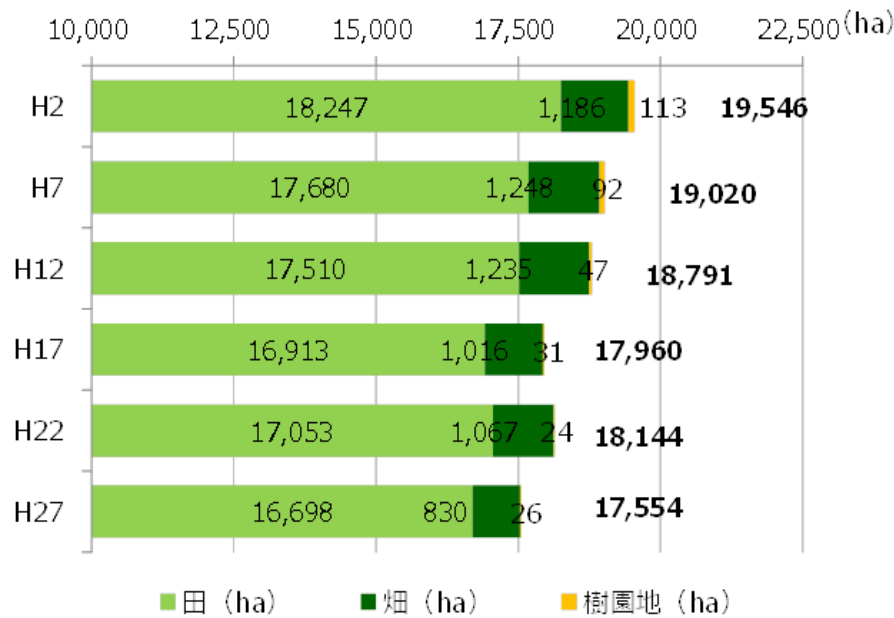


図1-1 大仙市経営耕地面積の推移

こうした現状を受け
需要があり
生産拡大の可能性がある
「いぶりがっこ」
に着目

☆平成30年度から**「農業」と「食」**をテーマにした新たな地域活性化構想の策定

2. いぶりがっこの可能性

- 漬物業界全体の市場規模が縮小する中、秋田県産漬物の出荷額は総じて増加
- しかし、全国の中では他県に大きく水をあけられている状況
- 秋田県全体のいぶりがっこ製造本数のうち**大仙市産は約7割**
- 「いぶりがっこ」に対する評価の高まり（マスコミ・食品メーカーから注目）

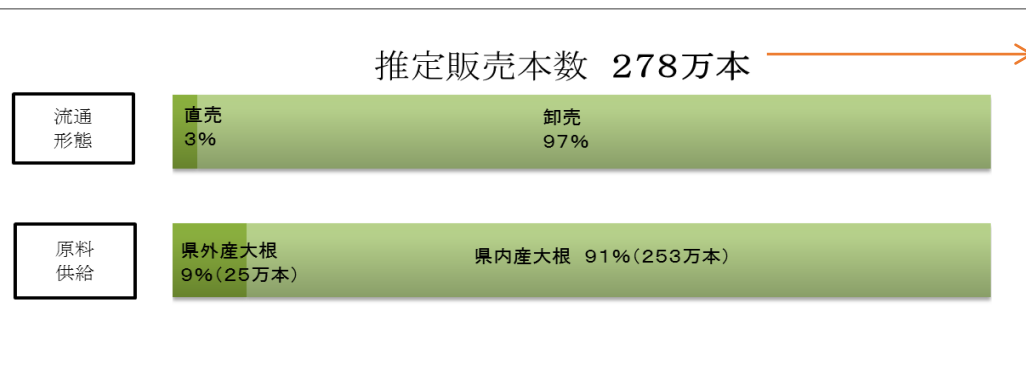
図2-1 主要産地の漬物出荷額の推移(工業統計調査)

単位：百万円

	H11	H16	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
全国計	548,884	431,510	375,603	355,018	320,522	329,269	321,799	318,374	330,928
秋田	1,544	1,534	1,610	1,632	1,765	1,711	1,727	1,628	1,860
山形	13,214	10,559	10,047	9,695	6,875	8,527	7,994	7,503	7,284
群馬	37,261	29,714	24,668	22,536	20,118	21,008	20,317	19,716	18,026
長野	37,649	31,879	27,240	26,198	18,565	22,319	20,663	18,864	17,479
愛知	38,997	23,439	19,274	17,688	15,547	16,032	14,524	16,100	15,305
京都	19,314	16,679	17,251	16,633	14,184	12,266	14,335	13,916	12,053
和歌山	62,094	54,061	48,597	46,849	42,760	45,707	44,251	44,396	45,487
宮崎	15,108	11,997	10,748	10,417	8,924	10,705	8,381	11,382	9,647

「いぶりがっこ」は
大仙市の
大きな「強み」

図2-2 いぶりがっこ生産販売状況（H29秋田県農業試験場調査）



製造本数(約278万本)の7割が大仙市産
(H26秋田県農業試験場調査)

約200万本

原料大根のうち県外産が約25万本

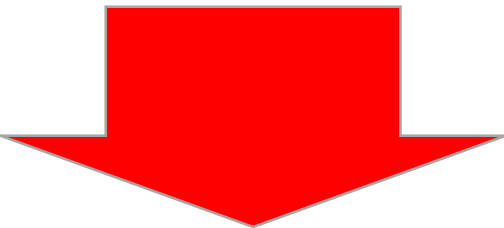
3. 産地化へ向けた挑戦



「いぶりがっこ」増産に向けた問題・課題

- 原料大根の大量・安定調達が困難
- 労働力不足、後継者不足
- 収穫や洗浄などの作業が重労働
- 製造・経営規模が小さく、生産が需要に追いつかない状況
- 機械に対する新たな投資が困難 輸送コスト高
- 10月から翌年1月までの間、品薄・欠品状態（推計約140万本）

課題を解消し



「強み」を最大限活かす

「いぶりがっこ」産地化へ

「いぶりがっこ」を成長の可能性のある農産加工品として捉え、
全国規模の産地化を図り、持続可能な自立した産業として定着を目指す

4. 産地化へ向けた取組

(1) 大仙市「いぶりがっこ」産地化協議会の設立

- 大仙市産「いぶりがっこ」の生産振興を目的に設立（H30.6.29）
- いぶりがっこの生産販売に係わる各種機関、団体等で構成 → **官民連携**



関係機関等に期待される役割

- J A 秋田おばこ …… 栽培方法等の指導
- J R 東日本 …… 独自販売ルート等の流通強化
- 大曲商工会議所 …… 6次産業化、製造業者等への経営アドバイス等
- 北都銀行 …… 機械化等に伴う資金調達、市場動向等の情報提供
- 秋田県仙北地域振興局 …… 関連機関等の調整、情報提供等
- 大仙市 …… 原料大根の増産

5. 成長的農作物を活用した 発酵食 I B U R I プロジェクト

大仙市いぶりがっこ産地化事業 [大仙市の取組]

[取組内容]

- | | | |
|----------------|-----|--------|
| ①産地化に向けた機運の醸成 | ・・・ | H30 |
| ②原料大根供給の体制づくり | ・・・ | H30～R1 |
| ③大規模生産に向けた調査研究 | ・・・ | // |
| ④大仙市産ブランドの確立推進 | ・・・ | R1 |
| ⑤販路拡大の推進 | ・・・ | R2 |
| ⑥いぶり文化の継承と観光活用 | ・・・ | // |

[財 源]

地方創生推進交付金の活用（事業費の1／2補助）

〈全体計画額 3年間〉	8, 285千円	（事業費ベース	16, 571千円）
・ H30実績額	2, 231千円	（事業費ベース	4, 462千円）
・ R1実績額	3, 599千円	（事業費ベース	7, 198千円）

[数値目標] 原料大根100万本の増産

平成30年度の取組

○大根の栽培研究（2,862千円※加工分析調査含む）

- ・秋田県立大学へ研究委託
- ・市内8ほ場で品種別栽培試験、後作研究、ほ場整備地での適性確認
- ・生産マニュアルの作成

○いぶりがっこ加工分析調査

- ・秋田県総合研究センターへ委託
 - ・「栽培研究」で栽培した大根で「いぶりがっこ」を製造し、栽培試験結果との関連性を確認
- 分析項目 / アミノ酸、PHなど5項目

○研究発表会の開催（412千円）

- ・「大根の栽培研究」及び「いぶりがっこ加工分析調査」結果の発表

○市場動向調査（1,188千円）

- ・(株)フィデア総合研究所へ委託
- ・いぶりがっこの流通ルートや市場動向の把握など

○6次産業化セミナーの開催

- ・平成31年2月20日（水）
- ・第1部 6次産業化基礎セミナー
- ・第2部 「いぶりがっこ産地が取り組む6次産業化」トークセッション



「いぶりがっこ販売量日本一」
大仙市で開催！

6次産業化 セミナー

入場無料

日時 平成31年2月20日（水）
13:30～16:15

会場 グランドパレス川端

第1部 6次産業化基礎セミナー
第2部 「いぶりがっこ産地が取り組む6次産業化」トークセッション

講師: 江野 昭弘、小島 海城

令和元年度の取組

○原料大根供給ネットワーク構築調査（1,797千円）

- ・大仙市いぶりがっこ産地化協議会へ委託
- ・原料大根の管理台帳の作成
- ・研究用夏大根の栽培を1ほ場、秋大根の栽培を6ほ場で実施



○大根の栽培研究（3,271千円※加工分析調査含む）

- ・秋田県立大学へ委託
- ・大根の連作障害への対応に関する研究及び栽培管理
- ・「大仙市だいこん生産マニュアル」の作成



○いぶりがっこ加工分析調査

- ・秋田県総合研究センターへ委託
- ・「栽培研究」で栽培した大根で「いぶりがっこ」を製造し、栽培試験結果との関連性を確認（分析項目 / アミノ酸、PHなど5項目）

○大仙市産いぶりがっこのブランディング（2,130千円）

- ・(株) あきた食彩プロデュースへ委託
- ・いぶりがっこを活用した二次商品の開発
- ・二次商品アイデアコンクールの開催
- ・専用パッケージ等の製作



令和2年度の取組

○販売拡大に向けた活動（3,605千円）

- ・東京ビッグサイトでの地域産品展へ出展。大仙市産いぶりがっこや、いぶりがっこ二次商品をP R。
- ・台湾で、現地の料理教室と連携し、現地バイヤーやインフルエンサーを招待したP Rを実施。



地域産品展

○いぶり文化の継承と観光体験（499千円）

- ・いぶりがっこの製造工程や歴史等を記したパンフレットの作成。
- ・上記イベント等で配布したほか、いぶり文化の周知や観光体験に活用していく。



いぶりがっこパンフレット



いぶりがっこを使用した台湾での料理教室



重要業績評価指標（KPI）

➤ 実施状況に関する客観的な指標

KPI		H29	H30 増加分	R1 増加分	R2 増加分	増加分 累計	備考
①原料大根生産量(t)	目標	47	0	0	50	50	
	実績	47	35	29	-42	22	
②二次商品数(個)	目標	0	0	2	1	3	
	実績	0	0	3	0	3	
③二次商品売上金額 (千円)	目標	0	0	0	2,684	2,684	
	実績	0	0	376	1,300	1,676	

【KPIによる事業検証】

[K P I ① 原料大根生産量]

R 2 年度は天候不順のため生産量が減少したが、作付面積は増加しており、一定の成果が得られたものと評価。

[K P I ② 二次商品数]

大仙市産いぶりがっこのブランドを確立し販路を拡大するため、いぶりがっこを活用した二次商品のアイデアコンクールを開催。市の広報やホームページを通じ広くアイデアを募集したところ、78点の応募があり、うち第一次選考で6点に絞り、県内の食品加工業者に試作を依頼。令和元年10月19日・20日の両日に開催された秋の稔りフェアにおいて、来場者を対象に試食投票を行い最優秀賞 1 点のほか、アンケート内容をもとに2点を優秀賞として選定。

これら 3 商品については、専用パッケージと統一したデザインラベルを開発・製作し、現在、市内道の駅等で販売を開始しており、地域ブランドとして地域で共有、確立し広く発信することにより、大仙市の特産品としての認知度向上、付加価値の創出による農業所得の向上、さらには生産・製造意欲の向上による供給量の増加、関連業種の売上増加などの好循環が期待される。

[K P I ③ 二次商品売上金額]

いぶりがっこを活用した二次商品のアイデアコンクールで選定されたメニューを商品化し、令和元年度末から本格的な販売を開始しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、道の駅等の実店舗での売り上げが伸び悩んだ。今後はオンラインによる販売にも力を入れていくこととしている。